

地域包括ケアの推進に関する一研究（その2）

地域ケア会議等の開催要件に係る自由記述の意味の解釈をふまえて

奥村 あすか(長崎純心大学人文学部)
 潮谷 有二 (長崎純心大学人文学部)
 永田 康浩 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター)
 吉田 麻衣 (長崎純心大学人文学部)
 宮野 澄男 (長崎純心大学人文学部)

長崎純心大学 (HP : <http://www.n-junshin.ac.jp/univ/>)
 長崎純心大学医療・福祉連携センター
 (HP : <http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/>, Facebook : <https://www.facebook.com/cmw.njunshin/>)
 長崎大学地域包括ケア教育センター (HP : <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/index.html>)

1

II. 方法

	H26調査	H28調査
1. 調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法	
2. 調査期間	2014年2月から同年2月末日	2016年4月4日から同年4月末日
3. 調査対象	全国の包括4,834か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者とした。	全国の包括4,622か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者とした。
4. 回収数	1,217件 (25.2%)	981件 (21.2%)
5. 倫理的配慮	倫理的配慮は、調査対象の包括及び当該包括を所管する主管課に対して調査協力依頼文の発送をし、調査の趣旨への賛同を得た上で回答を求めた。 また、調査対象者や対象の包括を特定することができないように必要に応じて、自由記述の文章にマスキングを行うなど個人情報の取り扱いに注意を払った。	

	H26調査： 地域ケア会議関係	H28調査： 地域ケア個別会議関係	H28調査： 地域ケア推進会議関係
6. 測定方法 (質問内容)	「地域ケア会議の開催において必要なことをご記入ください」	「地域ケア個別会議の開催において必要なことをご記入ください」	「地域ケア推進会議の開催において必要なことをご記入ください」
回答数	695件	554件	490件

※なお、平成28年調査においては、「個別ケースを取り扱った地域ケア会議のことを『地域ケア個別会議』といい、市長村レベルの地域ケア会議のことを『地域ケア推進会議』ということにしています。」という条件を付して調査を実施した。

3

I. 目的

- 平成23年の介護保険法の改正や平成26年6月の医療介護総合確保推進法の制定に伴い、地域ケア会議の拡充が図られていることは周知の通りである。
- このような状況の中、長崎純心大学医療・福祉連携センターは、地域包括支援センターの現状と課題について明らかにするために、平成26年2月（以下、H26調査という。）と平成28年4月（以下、H28調査という。）に全国の地域包括支援センターを対象とする悉皆調査「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」を行った。それらの研究成果として、奥村ら（2018）は、地域ケア会議等の開催要件に関する自由記述について探索的に明らかにするために、樋口（2004）が開発したKH Coderのテキストマイニングを用いてH26調査とH28調査の比較分析を行い、抽出語に経年的な違いが見られたことを報告しているが、抽出語がどのような文脈や意味で使われているのかについては明らかにしていない。

● そこで、本研究では、地域ケア会議等の開催要件について自由記述の意味の解釈を行うことにより、地域ケア会議を開催するにあたり何が必要な要件となっているのかについて具体的に明らかにすることを目的とした。

2

III. 分析方法

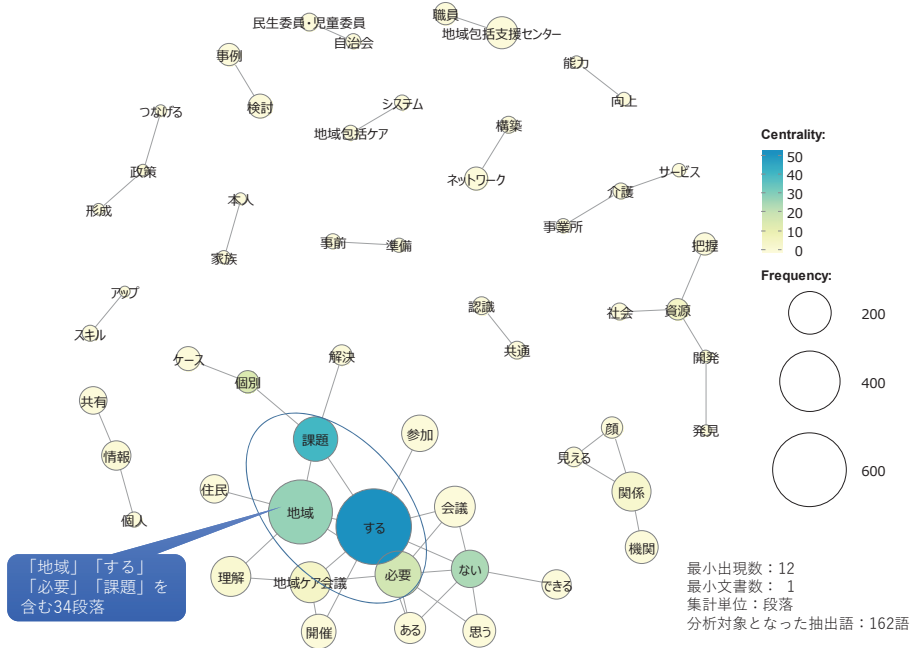
- 潮谷（2012）、樋口（2014）を参考に、樋口（2004）が開発したKH Coder3.Alpha.17aを用いて各調査別に地域ケア個別会議、地域ケア推進会議の開催要件に関するテキストマイニングを行った。なお、具体的な分析手続きは、下記の通りである。
1. H26調査地域ケア会議、H28調査個別会議、H28調査推進会議に関するテキストデータについて、表III-1に示す同義語処理、強制抽出した語等を用いたテキストマイニングを行い、基本統計量の算出と、品詞と頻度で分類された抽出語リストの観察を行った。
 2. 集計単位を段落とする共起ネットワーク分析の結果を踏まえて、媒介中心性が高い抽出語を含むテキストデータを別途作成し、段落単位でのクラスター分析（Ward法、Jaccard距離）を行った。なお、クラスター数の決定に当たっては、クラスター併合水準の観察を行い、クラスター数を決定した。
 3. 各クラスターに分類された自由記述の内容について、地域ケア会議の開催について明らかにするために、各クラスターに特徴的な語も参考にしつつ文脈や意味の解釈を行った。

表III-1. 同義語処理語及び強制抽出語、使用した品詞

同義語処理（同義語処理前の語句）
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括支援センター（包括、包括支援センター、包括センター、地域包括） ● 介護支援専門員（ケアマネ、ケアマネジャー、ケアマネージャー、CM） ● 社会福祉協議会（社協） ● 民生委員・児童委員（民生児童委員、民生委員、児童委員、民生委員）
※なお、同義語の処理はkwicコンコーダンス分析やコロケーション統計の結果を踏まえて、同義語として扱うことの妥当性を判断した上で、処理を行った。
強制抽出した語=タグ
地域包括支援センター、地域包括ケア、地域ケア会議、ケア会議、地域ケア推進会議、地域ケア個別会議、民生委員・児童委員、介護支援専門員、社会福祉協議会、多職種、他職種、見える、自治会、関係者、事業所、インフォーマル、認知症
使用した品詞
名詞、サ変名詞、形容動詞、固有名詞、組織名、人名、地名、ナイ形容、副詞可能、未知語、タグ、感動詞、動詞、形容詞、副詞、名詞B、動詞B、形容詞B、副詞B、名詞C、否定助動詞、形容詞（非自立）

4

IV. 結果 H26調査に関する分析結果

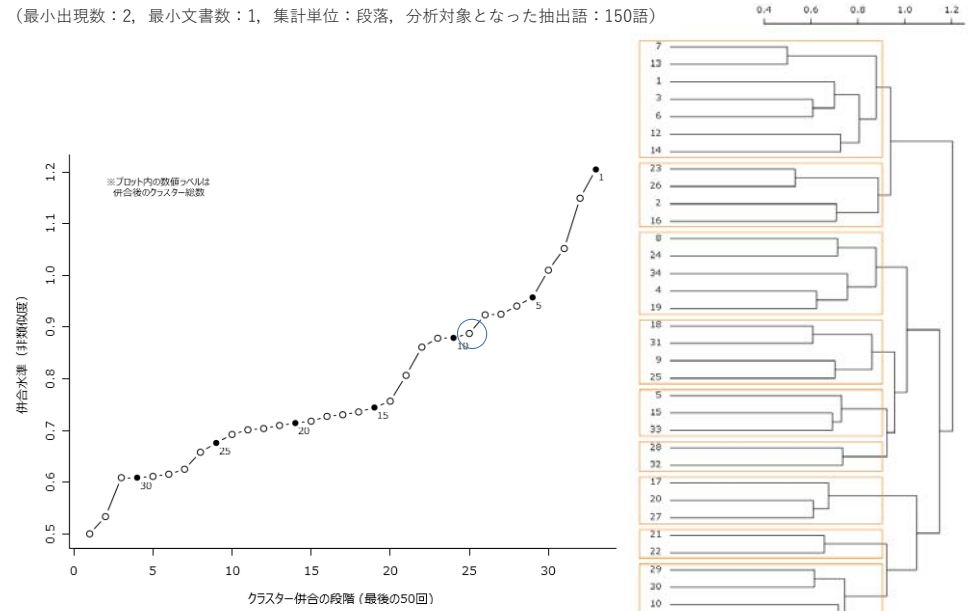


図IV-1 共起ネットワーク分析 (N=55,E=51,D=0.034,Jaccard係数 \geq 0.2)

5

● H26調査のクラスター分析の結果

(最小出現数:2, 最小文書数:1, 集計単位:段落, 分析対象となった抽出語:150語)



図IV-2 クラスター併合水準

図IV-3 デンドログラム

6

● H26調査の各クラスターの特徴語

表IV-1 特徴語の一覧表

1		2		3		4		5	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
思う	.467	と	.500	考える	.500	働	.500	目的	1.000
共有	.333	意味	.500	現在	.429	多職種	.400	重要	.750
システム	.286	運営	.400	形	.400	分析	.400	準備	.667
自体	.286	抽出	.286	困る	.400	開発	.333	大事	.500
説明	.286	いき方	.250	集まる	.400	発見	.333	資源	.429
地域包括ケア	.286	すくい上げる	.250	構成	.286	ケース	.273	社会	.400
内容	.286	ダメ	.250	持つ	.286	個別	.250	政策	.400
理解	.250	一丸	.250	場合	.286	プロセス	.250	把握	.333
居宅	.250	確認	.250	ケース	.250	作り上げる	.250	行政	.333
場	.200	確立	.250	地域ケア会議	.200	策定	.250	大切	.333
6		7		8		9			
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard		
家族	1.000	関係	.375	行動	1.000	事例	.800		
認知症	1.000	情報	.375	市民	1.000	構築	.750		
方向	.667	引き出す	.333	立場	1.000	捉える	.750		
大きい	.500	行える	.333	それぞれ	.667	ネットワーク	.571		
こまめ	.500	最適	.333	ほか	.500	ケア	.500		
アブローチ	.500	事業所	.333	移す	.500	困難	.429		
サボ	.500	重ねる	.333	間	.500	検討	.400		
テーブル	.500	成功	.333	含める	.500	ケア会議	.333		
安心	.500	体験	.333	起こる	.500	個別	.250		
委員	.500	同時に	.333	強化	.500	支援	.250		

7

● 各クラスターの特徴語を踏まえた自由記述に関する解釈の例 (H26調査結果の第8クラスター)

第8クラスターに分類された段落: 2段落 (段落21, 段落22)
 第8クラスターの特徴語:
 行動 (J=1.000), 市民 (J=1.000), 立場 (J=1.000), それぞれ (J=.667)

<第8クラスターに分類された段落の原文>
 (段落21)

地域で起こっている個々のケースの具体的な課題や現場の生の声から上がった地域課題をそこに直面している人だけではなく、関係機関や市民と共有し、必要な取り組みやそれぞれの立場でできることを考えてもらい、行動してもらえような検討の場にしていくこと。課題提起の方法や会議運営について、市と地域包括支援センターで知恵を出し合い工夫しながら運営していくこと。

(段落22)

事例検討を積み重ねることにより、多種間での連携強化、自治体内での関係部署の連携強化は図れてきていると感じている。今後は課題解決能力の向上のほか、事例の積み重ねにより地域課題の把握及び地域力を向上し、市民を含めた関係者と地域課題を共有し、それぞれの立場でできることを考えて行動に移していくことが必要と思われる。

<解釈>

地域課題を市民や関係機関、関係者と共有して、それぞれの立場でできることを考え、行動に繋がる取り組みが必要。また、会議運営については市と地域包括支援センターで協力しながら運営することが必要。

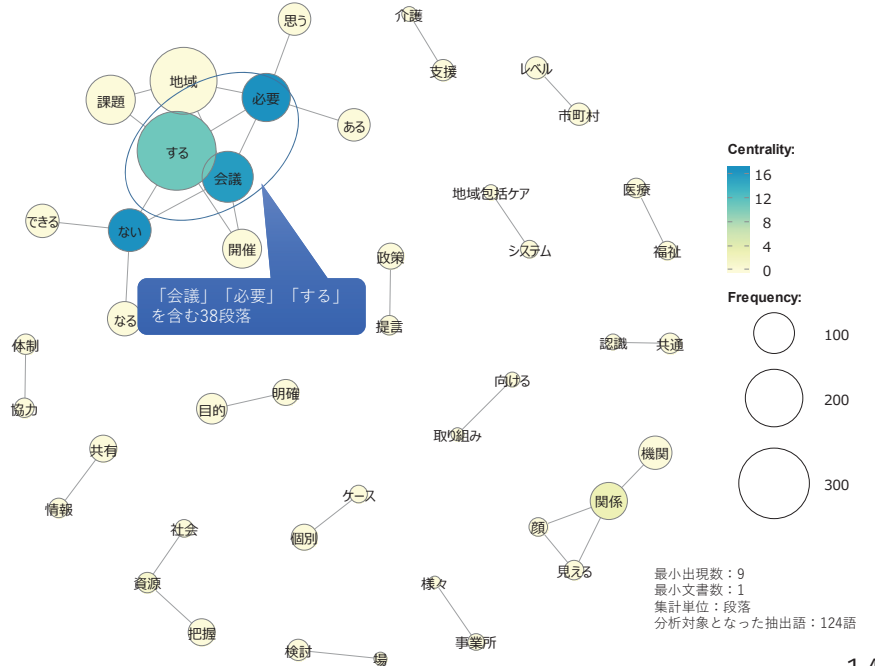
8

表IV-4 H28調査個別会議の各クラスターに分類された段落の意味の解釈結果

地域ケア個別会議の開催要件	地域課題の解決	専門職との連携	行政との関係	インフォーマルとの連携	運営や体制整備	地域ケア会議の目的の理解
クラスター1	課題解決のための方策を共有することが必要 実践して、モニタリングする				地域包括支援センターの職員のスキル向上が必要	開催の目的を明確にし、地域課題を抽出する。
クラスター2	地域の中で暮らす利用者について関係機関、専門分野の立場で何が出来るかを検討することが必要。					会議の内容や目的を明確にし、居宅介護支援事業所やサービス事業所等へ周知する
クラスター3	多職種で地域課題を共有し、課題解決に繋げる。 個別ケースから地域課題を抽出する。 地域課題を把握共有し、民生委員・児童委員、各事業所、地域や行政との連携を地域への展開や資源開発へと繋げる。					
クラスター4	地域の課題を抽出する参加者の意識			家族等と信頼関係を構築すること。 民生委員・児童委員からも情報収集し、アセスメントを行う	個人情報取り扱いには注意すること。	関係者間で事前に目的を共有しておくこと。
クラスター5		構成員の職種の選別（専門職、関係機関の担当課）や、医療関係者の参加。			構成員にとって共通の課題として身近に感じ、地域課題の解決を取り組めるようなテーマの選定が必要。	地域ケア会議の意義と目的について、専門職、地域に啓発し理解してもらう。

13

● H28調査推進会議に関する分析結果

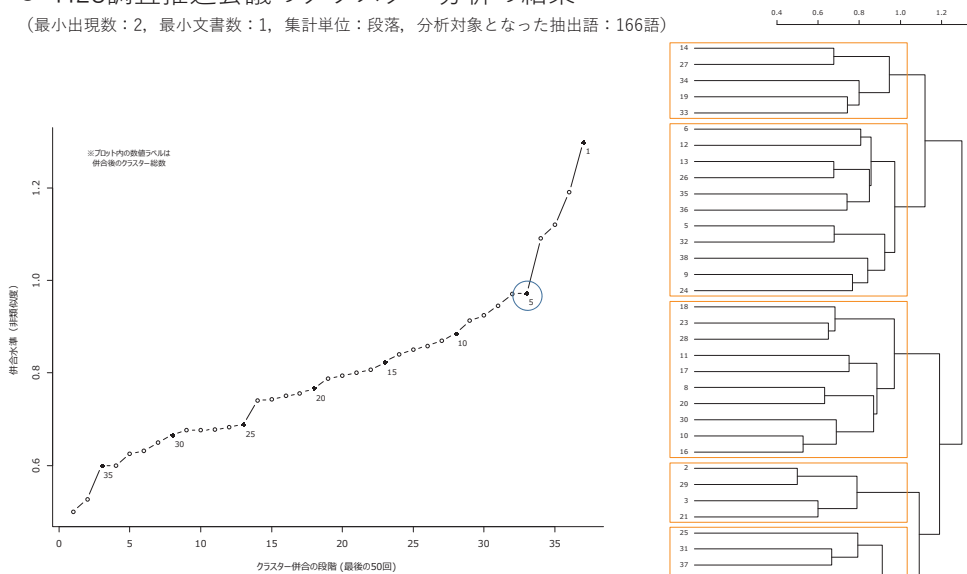


図IV-7 共起ネットワーク分析 (Node=44, Edge=35, Density=0.037, Jaccard係数 ≥ 0.2)

14

● H28調査推進会議のクラスター分析の結果

(最小出現数: 2, 最小文書数: 1, 集計単位: 段落, 分析対象となった抽出語: 166語)



図IV-8 クラスター併合水準

図IV-9 デンドログラム

15

● H28調査推進会議の各クラスターの特徴語

表IV-5 特徴語の一覧表

抽出語	1		2		3		4		5	
	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
求める		.600	行政	.714	開催	.600	機能	.500	意識	.273
内容		.571	行う	.500	思う	.368	目的	.333	理解	.273
支援		.500	地域包括支援センター	.385	推進	.333	方々	.333	応じる	.250
参加		.400	関係	.364	地域ケア推進会議	.300	明確	.250	事業所	.222
サービス		.400	社会	.364	地域	.273	5つ	.250	様々	.222
介護		.400	提言	.364	市町村	.273	基礎	.250	思う	.200
介護支援専門員		.400	福祉	.364	課題	.267	構成	.250	共有	.200
居宅		.400	連携	.357	レベル	.250	事前	.250	出席	.200
自立		.400	政策	.333	関係者	.231	持つ	.250	周知	.182
場		.400	地域ケア推進会議	.286	域内	.200	自身	.250	行政	.167

16

表IV-6 H28調査推進会議の各クラスターに分類された段落の意味の解釈結果

地域ケア推進会議の開催要件	政策や行政との関係	社会資源の開発	専門職との連携	インフォーマルとの連携	自立支援の検討	運営や体制整備	目的の理解
クラスター1	地域ケア推進会議では地域に不足している社会資源の検討や政策やサービス、地域作りに繋げる機会にするため、有識者、専門職、若い世代の参加が必要。				地域ケア会議で自立支援を検討するならば本人や家族の意向の確認が必要	参加者が負担にならない会議の在り方を検討する 皆が関心を持つようなテーマの選定が必要。	会議の内容や目的を明確にする
クラスター2	政策提言をするためには行政の関与が必要であり、積極的な意識やリーダーシップが求められる。各世代の協力を得るための行政内部局の連携が必要。	会議を通して不足している社会資源について検討	地域ケア会議には住民、医師会、行政、町内会、ボランティア等、広い分野にわたっての参加が必要。			定期的に会議を開催出来るようなシステムづくりが必要	地域ケア推進会議は、連携強化としてのツールとして意義がある。
クラスター3	多職種に参加してもらうために、行政のリーダーシップが必要。		地域課題の解決には、職員の増員や若い人の力が必要。			地域ケア個別会議を積み重ねて、地域課題を抽出すること、地域課題の解決には、職員の増員や若い人の力が必要。	関係者や地域住民に地域ケア推進会議について理解してもらう
クラスター4						地域ケア会議の役割や機能、目的を明確化することが必要、また、構成員が有するケースに対する情報の補足も必要である。	
クラスター5	行政各部局で開催されている地域課題に関する会議を横断的に取り組む 予算などを柔軟に捉えて行政内で連携・連帯していく意識を共有する 行政に意見を出しやすい仕組み作りや参加者への支援。		様々な関係機関や関係者が会議に出席できるよう、普段から繋がりを持つ				地域ケア推進会議の目的、地域課題を情報共有し、参加してもらう意識を高めるために地域ケア会議の必要性を理解してもらう。 医療職による会議の必要性の理解 出席者による会議の必要性の理解

IV. 考察

- クラスター分析によって分類された地域ケア会議等の開催要件に関する自由記述の意味の解釈を行った結果、3つの地域ケア会議等の開催要件の共通点として、「行政との関係」「専門職との連携」「インフォーマルとの連携」「運営や体制整備」ということを開催要件として理解することができることが明らかになった。「インフォーマルとの連携」について、H28調査では、地域住民との連携という文脈で記されていたが、H28年調査個別会議では、民生委員・児童委員との連携について3つの段落で記載が見られたこと、さらにH28年調査推進会議では、若い世代の参加が必要という文脈で記載されているものが2つの段落で見られ、経年的に連携が求められる関係者が特定されつつあり、複数の回答者が上記の関係者との連携を意識化しているのではないかと推察することができた。
- また、「行政との連携」について、H26調査では、多職種連携であったり、政策策定や社会資源開発の際に行政と連携が必要になるという文脈で記載されていたが、H28調査推進会議では、これらの要素に加えて、行政各部局における地域課題に関する会議を横断的に取り組む、予算などを柔軟に捉えて行政内で連携・連帯していく意識を共有するという行政の横断的な連携という要素を解釈することが出来、これらのことが地域ケア推進会議の開催要件として新たに求められてきているのではないかと指摘しておく。

H26調査地域ケア会議	H28調査個別ケア会議	H28調査推進ケア会議
行政との関係	行政との関係	政策や行政との関係
専門職との連携	専門職との連携	専門職との連携
インフォーマルとの連携	インフォーマルとの連携	インフォーマルとの連携
運営や体制整備	運営や体制整備	運営や体制整備
個別ケースの支援	地域ケア個別会議の目的の理解	目的の理解
地域課題の把握と共有	地域課題の解決	自立支援の検討
互助の逆機能		

文献

樋口耕一（2004）「テキスト型データの計量的分析－2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』, 19（1）, 101-115.

樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－」ナカニシヤ出版.

奥村あすか・潮谷有二・永田康浩（ほか）（2018）「地域ケア会議等の開催要件に関する一研究 全国地域包括支援センター調査結果の経年比較分析を踏まえて」『第23回日本在宅ケア学会学術集会抄録集』, pp.99.

潮谷有二（2012）「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究－社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して－」日本社会福祉学会編『対論社会福祉学3 社会福祉運営』中央法規, 281-324.

※本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。